

つがる市認知症になっても安心して老いられるまちづくり推進事業

<目的> 急激な高齢化に伴い医療や介護の様々な支援の必要性が増加しているため、可能な限り人生の最期まで住み慣れた地域で安心して自分らしい生活ができるよう、つがる市の高齢福祉の増進と地域包括ケアシステムの構築に向け、認知症支援の体制整備を推進する。

<事業> これまで当市において培われてきた認知症支援に対する地域資源や認知症の人や家族を支えるしくみ等の現状や課題を明確にし、今後の有効な認知症支援体制の仕組みづくりを地域の関係者と共に検討する。

主な内容	具体的な内容	目標年度
1. 地域の資源の把握	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域に住む高齢者の状態像 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者ニーズの把握・整理 ◆認知症の人を支える社会資源 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、関係団体、サービス（種類別）、取り組み、利用状況などの把握、整理 	平成 28 年度
2. 課題抽出	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題の抽出 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人を支える関係者が活動を通して感じ見えるもの ・必要な支援を行うための社会資源が整備されているかの確認等 	平成 28・29 年度
3. 対応策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題に対する対応策の検討 ～現存する社会資源の機能拡充や新たな社会資源整備の検討ほか～ 認知症の理解とその普及促進 認知症の早期発見・早期対応の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市が実施する、認知症初期集中支援推進事業との整合性を図る 医療と介護の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・連携体制の構築 ・関係者の情報共有 人材の育成とケアの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアパス作成 ・認知症地域支援・ケア向上事業との整合性を図る 本人・家族支援 安心・安全な地域ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ・見守りネットワーク体制 ・行方不明者の予防と早期発見のしくみ 若年性認知症対策について その他 	平成 29～37 年度
4. 対策の提言等（認知症支援事業等実施関係機関に対して対応策の提言等を行う）	◆関係機関・関係団体との連携	段階的に評価を行う
5. その他	その他、必要なこと	

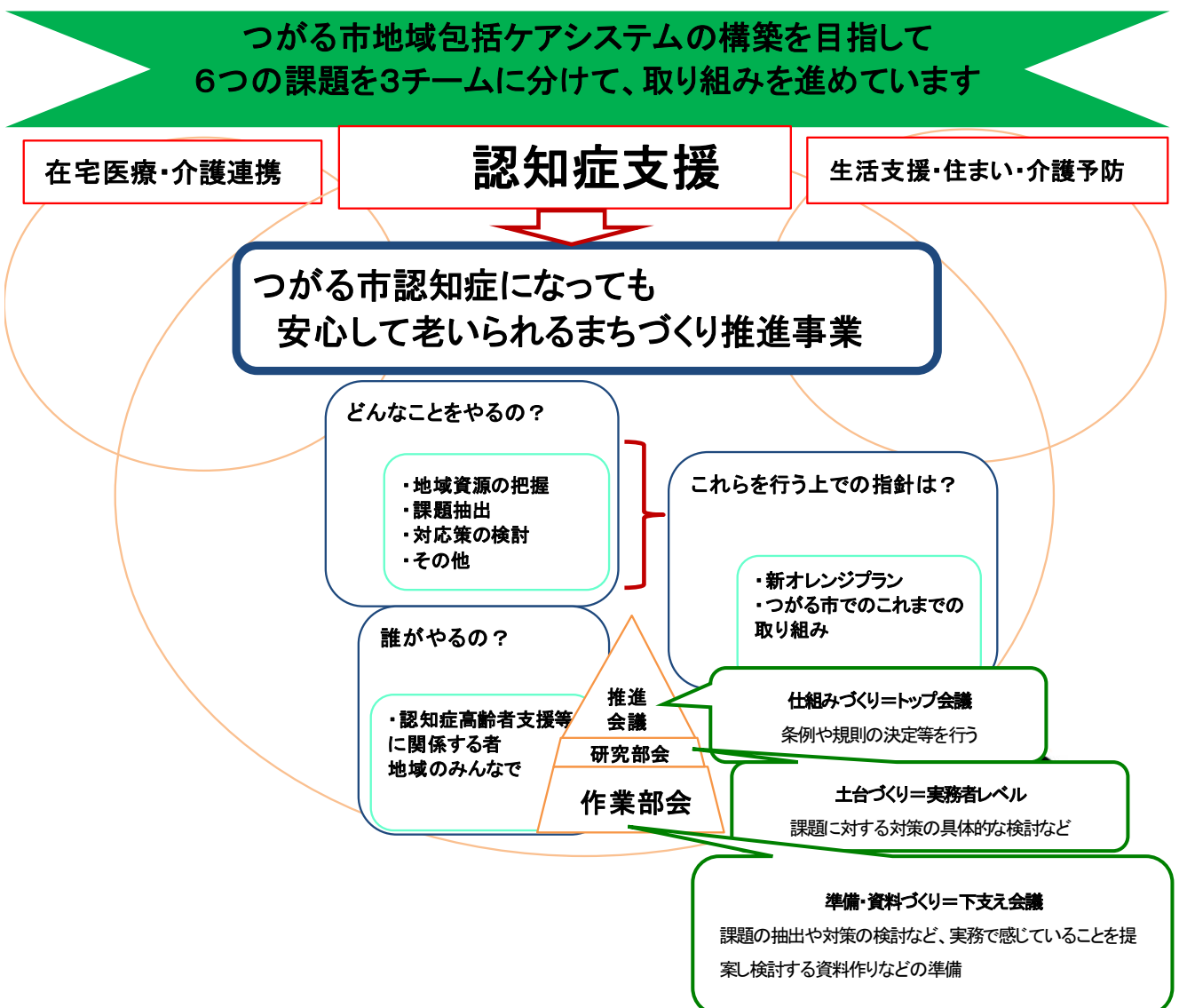
<体制> 3部会で協議していく

1. 推進会議：「認知症になっても安心して老られるまちづくり推進事業」として、研修部会や作業部会で検討された課題や解決策の内容等を活かし、認知症の人の意思が尊重され、認知症の人にやさしい地域づくりの体制を構築する仕組みづくりを行う。
2. 研究部会：地域の認知症支援に関わる多職種の者、組織及び行政と一体的に取り組み、多職種協働によるネットワークの強化を図りつつ、認知症の人を支える取り組みについて、作業部会の上部組織として位置づけ、作業部会が提案した事業の開発や事業実施の提案を行う。
3. 作業部会：データ収集や解析を行い、対応策を検討し、推進会議及び研究部会のための資料作成の事務作業を行う。
 - ア 地域資源の現状把握・整理・見直し
 - イ 認知症支援の課題抽出
 - ウ 対応策の検討

<構成員> 作業部会：在宅介護支援センター（キャラバン・メイト兼）1名、介護保険施設1名、家族のつどい会員（地域の専門職兼）1名、医療機関（専門外来を開設している）1名、地域包括支援センター2名、認知症地域支援専門員2名（うち1名は行政認知症施策担当者）：（計8名）

研究部会： } 現在未定。今後、取り組みの課題別に部員等を決定していく。
 推進会議： }

* つがる市地域包括ケアシステム構築の取り組みと本事業との関連イメージ図



<実績>

	日時	場所	参加者	検討内容など	
つがる市地域包括 ケアシステム準備 会 (認知症支援チ ーム)	2015/8/5	市役所相談室	3名	<ul style="list-style-type: none"> 作業部会メンバーについて リーダー選出 実施に向けた今後の方向性について 	
	2016/9/16	市役所相談室	3名	打合せ <ul style="list-style-type: none"> 28年度作業部会の内容について 	
作 業 部 会	1 回 目	2016/9/30	つがる市役所 会議室	10名 (作業部員 の他介護 課職員2 名参加)	<ul style="list-style-type: none"> 事業目的やスケジュール等について 地域包括ケアシステムについて 高齢者の現状と認知症施策について 私たちのイメージ「認知症になっても安心して老いられるまちって、どんなイメージ？」
	2 回 目	2016/10/21	つがる市役所 会議室	8名	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り 作業部会の活動方針の共有
	3 回 目	2016/10/31	つがる市役所 会議室	9名(作 業部員の 他介護課 職員1名 参加)	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り
					<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ① 「早期発見・早期対応」の地域資源を抽出
	4 回 目	2016/11/11	つがる市役所 会議室	8名	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り ワークショップ② 「早期発見・早期対応」の課題を抽出
	5 回 目	2016/11/29	つがる市役所 会議室	6名	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り ワークショップ③ 「早期発見・早期対応」の課題を明確化
	6 回 目	2016/12/2	つがる市役所 会議室	6名	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り ワークショップ④ 「認知症の理解を深める普及啓発」の地域資源を抽出
	7 回 目	2016/12/20	つがる市生涯学習交 流センター松の館研 修室	6名	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り ワークショップ⑤ 「認知症の理解を深める普及啓発」の課題抽出・明確化
8 回 目	2017/1/17	つがる市役所 会議室	7名	<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り ワークショップ⑥ 「認知症の家族への支援」の地域資源を抽出 	

平成 28 年度	日時	場所	参加者	検討内容など
作業部会	9 回目	2017/1/26	つがる市役所 会議室	7 名 ・前回の振り返り ・ワークショップ⑦ 「認知症の家族への支援とは何か」 「認知症の家族への支援」の地域資源・地域課題を抽出 「認知症の家族への支援」の課題を明確化
	10 回目	2017/2/8	つがる市役所 会議室	6 名 ・前回の振り返り ・ワークショップ⑧ 「認知症の家族への支援とは何か」 「認知症の家族への支援」の地域資源・地域課題を抽出 「若年性認知症（施策の強化）」の地域資源抽出・課題抽出・課題明確化
	11 回目	2017/2/23	つがる市生涯学習交流センター松の館研修室	6 名 ・前回の振り返り ・ワークショップ⑨ 「認知症の発症予防（推進）」の地域資源抽出・地域課題抽出・課題明確化
	12 回目	2017/3/9	つがる市役所 会議室	7 名 ・前回の振り返り ・ワークショップ⑩ 「ワークショップ①～⑨まで振り返り」 「つがる市の認知症支援の課題の明確化」

(実 10 名 延べ 92 名)



作業部会
の様子



ある日のワークショップ：
早期発見・早期対応の地域資源から見える課題を明確化しました。



作業部会最終回：
つがる市の認知症支援の課題を振り返り、総まとめを行いました。

<平成28年度の評価・今後の課題など>

- ・平成27年度の地域包括ケアシステム準備会において、大枠の方向性が確認され、平成28年度9月より、つがる市の認知症支援体制整備を目的とした「つがる市認知症になっても安心して老られるまちづくり推進事業」作業部会（つがる市内の保健・医療・福祉・介護・ボランティア等関係者）が組織されました。

- ・作業部会では、つがる市の認知症支援に対する地域資源（予防・早期発見・ケア・人材等）から見える課題を抽出・明確化するためのワークショップを行い、つがる市の認知症支援に関わる者の立場から見える課題をまとめることができました。

今後は、市がこれらの課題を参考に、改めてつがる市認知症施策の方針等を見直し、平成29年度では、国が示す事業（認知症初期集中支援事業や認知症ケアパスの作成ほか）の実施に向けた取り組みの検討を進めていく予定です。

- ・作業部員は、はじめのうちはワークショップに慣れず、地域資源や地域課題の抽出について何をどのように考え発言していいのか分からず戸惑いもありましたが、回を重ねるにつれ、日頃の活動を振り返りながら日々の業務を通して感じている課題などを話され、活発にワークを行うことができるようになりました。地域の関係者が顔を合わせる場があり、これらの作業を共に行ったこのプロセスこそが本事業の目的であり、地域で支える地域力を伸ばしていくことの第1歩になるものと評価できます。